

## いなむら市長の「い〜なこの街 尼崎」 1月

テーマ：「大災害と防災対策」について

### DJ(林)

平成7年1月17日の午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災。

そして昨年の3月11日の午後2時46分に発生した東日本大震災。

どちらも多くの尊い命が奪われ、財産が失われました。自然災害は繰り返し起こり、私達の生活を度々脅かします。

震災の脅威を目の当たりした私たちは、これらの地震を風化させないように後世へと伝えていくとともに、その経験と教訓を今後活かしていく義務があります。

今回は、「大災害と防災対策」をテーマに、尼崎市の防災体制などについてお話をお聞きしたいと思います。

さて、以前お聞きしたことがあるんですが、市長は、阪神・淡路大震災のとき、ボランティア活動をされていたんですよね？

### 市長

はい、そうなんです。私は当時神戸大学の学生だったんですけれども、生まれて初めてボランティア活動というものを体験しました。

最初は、避難所でお手伝いをできればということで活動を始めたんですけれども、まあ私自身は被災はしていなかったもので、何かできることがあればという気持ちだったんです。

そのあと、なかなか被災者の皆さんの生活が、再建が進まなくて、もっと何とかできるんじゃないか、この助け合いが形にならないのかなと思ったことが、実は、今こうやって政治に関心を持つ大きなきっかけにもなりました。

### DJ(林)

そうだったんですか。

阪神・淡路大震災の被災地では、毎年この時期に防災に関連した様々な事業が行われていますが、尼崎市では、どのようなことを行いましたか？

### 市長

はい、尼崎市でも毎年「1・17は忘れない」ということで、地域防災訓練を行っています。今年も1月17日の午後1時半から2時半の間に、清和小学校をメイン会場として防災訓練を実施しました。

特に今年は、東日本大震災の発生をうけて、津波からの避難訓練ということに重点をおいて実施をしました。

また、午後1時30分頃、防災行政無線の拡声器から災害時の避難合図と同じサイレンを鳴らして、NTTドコモさん提供の緊急速報エリアメールも配信するという、こういったことも初めての試みとして実施しました。

### DJ(林)

そうですか。さて昨年は、東日本大震災が発生して、東北地方を中心に阪神淡路大震災を超える大きな被害がでました。これをうけて尼崎市では、気仙沼市を中心に支援を行っておられるんですよね。

## 市長

はい、そうなんです。本当に甚大な被害で、私達が経験した阪神淡路大震災と今回の津波の被害というのは、また大きく状況が違っていました。

そういった中、息の長い支援、そして顔の見える信頼関係が大切だという風に強く感じまして、私自身気仙沼市の方に訪問をさせていただいて、最初は保健士が継続して入っていたことがきっかけだったんですけども、未永く気仙沼市をパートナーとして応援していこうということで呼びかけをさせてもらいました。

市内の企業さんや市民団体、学校とか、本当に多くの方々が、だったら私達も気仙沼市を応援しようかということで、全市でいろんな形で支援の輪が広がって本当に心強く思っています。

## DJ(林)

そうですね。東日本大震災では、特に津波による被害が大きかったんですが、尼崎市も海に面していますから、地震による津波の被害が心配されますよね。

## 市長

そうなんです。市民の皆さまからも、この3月11日の後は大変多くのお問い合わせ、心配の声もいただきました。

尼崎市は地盤沈下の歴史があって、非常に海拔が低い、しかも平坦ですので、高台があまりないのが特徴なんですよ。そういった中で、いざっていう時にどこに避難をしたらいいのか、そういう心配をされている方も多いと思います。

今回の東北地震の後、実は、南海地震、また、東海・東南海、まあこういったことが、次の災害として非常に警戒が必要だと言われているわけなんですけれども、実は、今、南海地震の発生確率が今後10年以内で20%、30年以内だと60%、そして50年以内となると90%と言われています。

非常に、高い確率でこういったことが予想されていますので、尼崎市でも特に地震だけではなく、そのあとの津波についても対策が必要になっています。

## DJ(林)

そうですか。

こうした災害に備えて尼崎市では、どのような防災体制をとられていますか？

## 市長

はい、私達も東日本大震災を受けまして、様々な見直しを行ってきたところです。まず第一に先ほど申し上げましたように、非常に高台が少ないというのが尼崎市の特徴ですので、津波避難ビルですね、いわゆる、高さがあって耐震性も備えている建物を新たに、かなりの数を避難場所として、指定させていただきました。

これまで避難所と言いますと、どうしても公共の施設が多かったんですけども、例えば商工会議所

のビルであるとか、ホテルであるとか、民間企業の皆さんにもご協力をいただいて、そういった民間のところも数多く新たに指定をさせていただいています。

また、条件を満たしているそういった建物の所有者の方に、ご協力の呼びかけをさせていただいてまして、これからもどんどん、協定を増やしていく予定です。

皆さんも是非日頃から、いざというときに自分はどこが逃げる場所として近いかな、あっという所が新しく避難所に指定されているな、っていうことを確認をしていただきたいという風に思います。

**DJ(林)**

本当ですね。さて、最後に南海地震などの災害に備えて私たちにできることは、何でしょうか？

**市長**

そうですね。まずは、最初に地震がきます。私たちは、今どうしても津波のほうに意識がいきますけれども、阪神淡路大震災の経験も私たちは忘れることができません。

例えば、大きな家具はしっかりと止めていただくとか、そういった普段から家庭の中でできる取り組みを是非お願いしたいと思います。

また、お昼にくるのか夜にくるのか、災害はいつくるのか分かりません。そういう意味では、家族がバラバラの場所にいる時間帯に災害が起こるかもしれない。そういった時にどんな風に連絡を取り合うか、どこで待ち合わせをするかなど、やっぱり1・17、3・11、様々な機会をとらえて家族でもいざという時のことを話し合っていたいただきたいと思います。

そして、もし、本当に災害が起こった時には皆さん、是非情報をしっかりと落ち着いて把握をしていただきたいと思います。

今FMをお聞きいただいていると思うんですけども、こういったFMあまがさきなどでしっかりとお知らせしていきますし、テレビや、町内会の会長さんや障害者団体さんなどに配っている行政無線等でもしっかりとお知らせをしていきますし、また屋外にある拡声器、これもこれから少し増やしていかないといけないということを考えております。

皆さん、それぞれの方法でしっかりと情報の把握に努めていただきたいと思います。

**DJ(林)**

それでは稲村市長、本日もありがとうございました。

**市長**

はい、ありがとうございました。